

19/07/25

■ 2019年6月26日 第11回北埼玉吸入療法連携会を開催しました

北埼玉吸入療法連携会では、年3回の講習会を開催しています。今回は、6月26日水曜日、午後7時～9時までの2時間、いつもの埼玉県立循環器・呼吸器病センターを離れて、東松山市民文化センターでの開催となりました。東松山薬剤師会の薬剤師先生方の全面的なご協力のもと、多くの薬剤師の先生方にご参集いただきました。



講習会（連携会）は、座学の講義と吸入手技指導・連携の実習から構成されています。まずは、北埼玉吸入療法連携会の代表を務める筆者が、総論として吸入療法の成功のカギについてお話させていただきました。吸入療法の成功のカギは、①吸入薬の選択と処方のみにあるのではなく ②吸入薬処方後の吸入手技指導と、患者さん個々人と処方薬のマッチングの確認と調整こそ重要であり ゆえに、③吸入療法では薬剤師の先生方が大きな役割を果たすこと をお話させていただきました。

続いて、吸入手技指導のポイントと患者教育について、喘息・COPD それぞれに関しご講演をいただきました。喘息に関しては、埼玉県立循環器・呼吸器病センター薬剤部の柳田 絢子先生より、吸入薬のアドヒアランス向上を目的とした患者教育のポイント：①慢性気道炎症の病態を患者に理解させることの重要性 ②口腔内有害事象の発生抑制のためのうがいの重要性 についてご講演をいただきました。COPD に関しては、熊谷薬剤師会の田島敬一先生より、①治療の基本は禁煙であるが、②身体活動性の向上に資するべく、

吸入療法のみならず非薬物療法として栄養療法などを組み合わせて検討することの重要性 についてご講演をいただきました。

講演に続き、①吸入指導の実際的な流れ ②指導依頼書・報告書の具体的な使用法（実際の連携の流れ）
③埼玉吸入指導マイスター制度について 埼玉県立循環器・呼吸器病センター薬剤部：杉田先生（当会ホームページ作成責任者）よりご説明させていただいた後、ロールプレイ研修を実施しました。ロールプレイ研修では、用意させていただいた（ホームページにもダウンロード可で掲載させていただいている）資料を用いて、薬剤師役・指導役・評価者の三人一組となった、白熱した吸入指導実習が展開されました。

いずれのご講演も丁寧なお話をいただき、またロールプレイ・実習も盛況でありました。大変に有意義な会になったと思います。地域の吸入療法の質を高めんと志す薬剤師の先生方に、少しでもお役に立てていればありがたいと思う次第です。最後に、今回の講習会（連携会）の準備にご尽力いただきました、東松山薬剤師会の諸先生方をはじめとする関係諸氏に、この場をお借りして心より深く感謝申し上げます。

（文責 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 呼吸器内科 高久洋太郎）